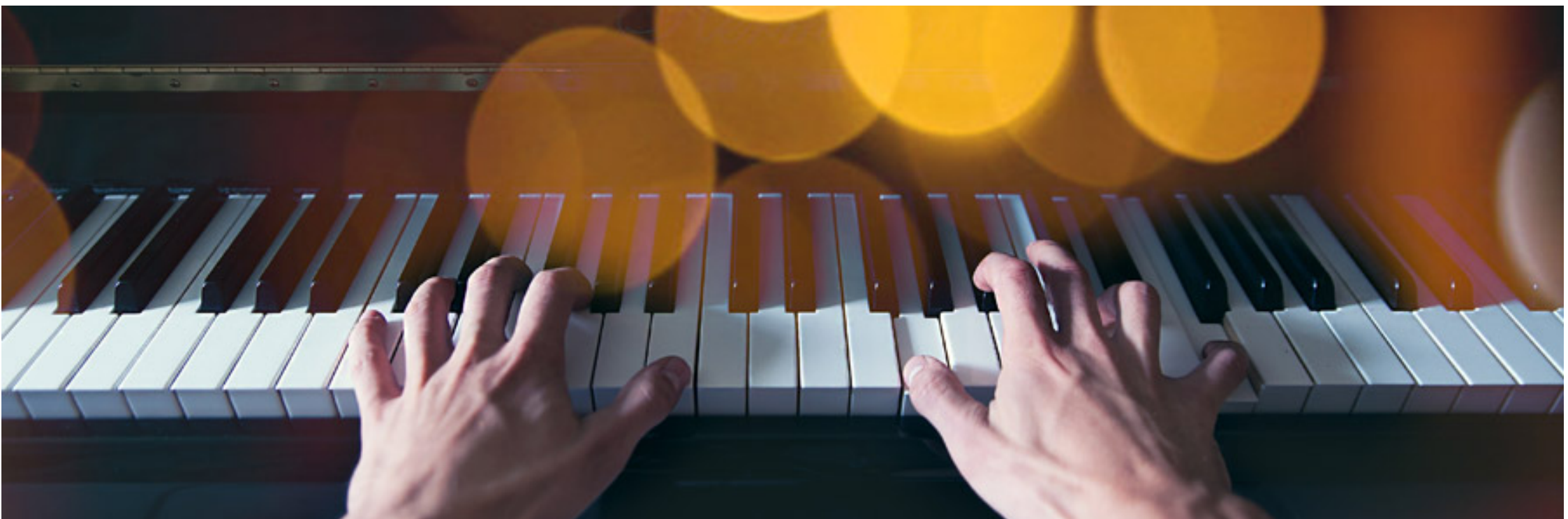


間違えても良いから

自分の言葉で「会話」ができれば

楽しいんじゃないかなと思うのです



例えば話ですが、もしフランス語の朗読大会で優勝した少女が、受賞インタビューで記者からの質問に対し、一言もフランス語で答えられなかったとしたら？

音楽界においても、同じような「受賞者」を時々見かけます。先生から教えられた歌い回しを完璧に再現してコンペに受賞した子は、来年度の課題曲も「先生のお手本」がないと、どう弾いたらいいか分からないかもしれない。大人になっても、「正しさ」を追い求めていくうちに、様々な意見に振り回されてしまい、「自分の演奏」を見失うことも。

間違えてもいいから、簡単な言葉で「会話」ができれば楽しいと思うのです。クラシック音楽においても、会話的な世界があることを知ってほしい。自分の言葉で話して、伝わる喜びを知ってほしい。今からでも身につけることができるのは、アンサンブル感のある演奏。拍子と和声を共有しながら、構成感の中で主体的にメロディーを奏でる演奏。自分なりの「良い悪い」「好き嫌い」を自ら判断出来る耳。アナリーゼ本の受け売りではなく、譜面情報から、自らの力で音楽を読み解く面白さ。「分かる↓弾ける↓伝わる」この楽しさが生まれて来た途端、学びの質が激変するはずです。

分かっているのに弾けてしまうことは、のちに音楽そのものを嫌いになってしまう危険もあります。音のアイデンティティが、その音と周囲との関係性によって決まってくる「アンサンブル感」が足りない、アイデンティティが脆弱な音の羅列になってしまふ。表面的にそれっぽく演奏できていたとしても、自分で納得して音を発している実感がないと、本人は苦しくないだろうか。私自身、そんな時は「**鍵盤に触らない譜読み法**」で楽譜を丁寧に読み込み、**コード付きの構成譜**で要約を書き出します。この作業をする中での「分かった！」瞬間は、かなり感動モノ。私はこの作業があまりにも好きすぎて、新しい曲を譜読みするときは、まず譜面と鉛筆を持って喫茶店で何時間もこもり、構成譜を作るようになりました。

「分かっているけど弾かない」という世界が音楽界にあるのも事実です。でも、せつかくなら「分かる」と「弾ける」が結びついてほしい。それこそが、「自分の音楽」になるのだから。

学びの内容としては、とても地味なことかもしれませんが、**拍子・和声**を体感できるまでひたすら**アンサンブルアプローチ**を続けたり。譜面を丁寧になぞるように読んで、コード譜を作ったり。逆に、譜面の音符を**即興的に別のニュアンス**で演奏する練習をしたり。でもそのどれもが、音楽についての「**会話**」の**基礎練習**。

音楽と遊びながら「会話」を覚えていくうちに、実は音楽の本質にグッと近づくことになる。その実感を、共に体験しませんか。

和声感 × 拍子感 × 構成感 × 即興性 × アンサンブル力

●和声感が身についた実感を持てるまで！ひたすらアンサンブルアプローチ

- メロディーを歌わず、コードを歌うとは？
- メロディーを変えてみる
- メロディーのリズムとは別に存在する、和声のリズムとは
- 圧倒的なドミナント→トニック感

●拍子感が身についた実感を持てるまで！ひたすらアンサンブルアプローチ

- リズムを追わずに、拍子を感じるとは？
- リズムを変えてみる
- 拍子のメモリの単位を変えて、リズムの解像度アップ
- パターンのハンコを見つける癖をつける

●構成譜を作れるようになる

- コード入門
- コード譜のみで、簡単な伴奏が弾けるようになる
- チェルニー30番を構成譜にしてみよう

●鍵盤に触らない24の譜読み法を使った、具体的な譜読み実践

- 初級楽曲から高難度楽曲まで、同じ方法を用いて譜読み
- 24種類の実践

●譜面のない世界を体感！クラシック曲で簡単な即興ができる

- まずは「メロディーフェイク」から！ショパンを真似る。
- 数小節ずつ即興リレー！

●ツェルニー30番を、構成譜のみで演奏してみよう

- 古典派の基本的な「TSDT」の理解と体感
- ドミナント感のあるメロディーの持って行き方

●「音痴なピアノ」から「ハモるピアノ」へ

- 音程幅とハモリの体感実践
- バッハインベンションを連弾で弾こう

●ツェルニー30番を使って、いまより「上手そうに聴こえる」テクニック習得。

- 個別の課題に合わせた筋トレパターン
- チェルニーを連弾で弾こう

●リハーモナイズで遊ぼう！

- クラシック曲を使い、別の和声を当てることで、元の和声の色味を再確認。
- 童謡を使って、自分だけのリハーモナイズを作る

●ポップス入門！ここさえ抑えれば演奏も指導もOKなポイント

- メトロノームとアンサンブルできるようになる
- 4分打ちの安定した、自分だけの納得いくグルーヴ感

●音色と音質、ピアノの音はここまで作れる

- 音色に対する具体的なイメージを増やす
- 音のアイデンティティは「1音」では決まらないことを知ったら、音を出すのが怖くなる
- 音の響きの「どこ」を聴くか、を自分で調節してみよう

●鍵盤ハーモニカのレッスン活用術

- 楽器の特性を理解する
- メロディーを一度吹かせるだけで、勘のいい子は激変する
- フレーズの終わりの意識、どこまでが一息なのか

●ベースから見える景色。影の支配者を操る。

- ベースを横に歌えるようになるだけで、3割り増し上手く聴こえる
- 有名曲をベースだけひたすら弾いて連弾していく。

●ポップス指導上級編。ポップスのアレンジ曲を生徒が持ってきたら。

- せめてベースだけでもメトロノームに合わせてカッコよく弾けるように
- メトロノームの重要性。
- ポップスのシンコペーションの感じ方「時間を使うほど速く聴こえる」技